安全データシート

改訂日:2024年8月19日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	安息香酸
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京)　(0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋)　(082)537-0290(広島)
整理番号	AA1273

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性:区分1 生殖毒性:区分2 特定標的臓器・全身毒性:区分2(上気道) (反復ばく露)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性):区分3
ラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険
注意書き	重篤な眼の損傷 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い 長期にわたる、又は反復ばく露による上気道の障害のおそれ 水生生物に有害 【安全対策】 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手などをよく洗うこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 【応急措置】 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断／手当を受けること。 直ちに医師に連絡すること。 気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。 【保管】 施錠して保管すること。 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
GHS分類区分に該当しない他の危険有害性	粉じん爆発のおそれがある。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	安息香酸
化学式	C_6H_5COOH
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN:65-85-0
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(3)-1397 / 公表
濃度又は濃度範囲	99.5%以上
危険有害成分	安息香酸
その他	HSコード:2916.31

4. 応急措置

吸入した場合		空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚に付着した場合		直ちに汚染された衣類を全て脱ぐ／取り除く。皮膚を流水／シャワーで洗う。
眼に入った場合		水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズをしていて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合		水でうがいをさせ、水又は牛乳を飲ませる。無理に吐かせてはならない。速やかに医師の手当てを受ける。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	吸入:	咳、咽頭痛
	皮膚:	発赤、灼熱感、痒み
	眼:	発赤、痛み
	経口摂取:	腹痛、吐き気、嘔吐

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	該当情報なし。
特有の危険有害性	該当情報なし。
特有の消火方法	該当情報なし。
消火を行う者の保護	消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	処理を行う際には、ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	こぼれた物質をプラスチック容器内に掃き入れる。湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。
二次災害の防止策	該当情報なし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	粉じん爆発を避けるため、粉塵防爆型電気および照明設備を使用する。
(局所排気、全体排気)	局所排気または全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	粉じんを吸入しないこと。
接触回避	酸化剤との接触を避ける。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手などをよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉し、涼しく換気の良いところに保管する。
安全な容器包装材料	ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレン

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	0.5mg/m^3(TWA)
設備対策	局所排気装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	呼吸器用保護具、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	結晶又は粉末
色	白色
臭い	ほとんど無臭
融点/凝固点	122℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	249℃
可燃性	有り。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	爆発下限界:15vol%, 128℃
引火点	121℃(密閉式)
自然発火温度	570℃
分解温度	100℃で昇華しはじめる。
pH	2.5～3.5 (20℃, 飽和溶液)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	0.29g/100ml(20℃)
n-オクタノール/水分配係数	log Pow=1.87
蒸気圧	0.1Pa(25℃)
密度及び/又は相対密度	1.3g/cm^3 (密度)
相対ガス密度	4.2(空気=1)
粒子特性	該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	100℃で昇華し始める。
危険有害反応可能性	酸化剤と反応する。 粉末や顆粒上で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。
避けるべき条件	粉末や顆粒状で空気と混合。粉塵の堆積を防ぐ。
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	

11. 有害性情報

急性毒性	経口:	ラットのLD50値として、1,700 mg/kg(環境省リスク評価第7巻:暫定的有害性評価シート(2009)、SIDS(2004))、2,530 mg/kg 、2,565 mg/kg(SIDS(2004))、2,700mg/kg(JECFA FAS5(1974))、3,040 mg/kg(SIDS(2004)、CICAD 26(2005))の報告がある。該当数の多い区分外とした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性		SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」と報告されている。一方、エタノール又はクリームに0.05%含有する本物質を用いたパッチテストで614人中18人で刺激性がみられたとする報告やワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告があるため、分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		SIDS(2004)において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器:	該当情報なし。
	皮膚:	SIDS(2004)には、テストガイドラインに準拠した試験で「感作性なしとするデータが多数報告されている。一方、ヒトへの影響としては、ワセリンに0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで32人中7人で蕁麻疹がみられたとの報告(SIDS(2004))、皮膚科の患者2,045人に、5%濃度の本物質Na 塩でパッチテストを行った結果、陽性反応のみられたのは5人(0.2%)のみであったとする報告や、化粧品に対してアレルギーや刺激症状があると考えられる患者5,202人に本物質でパッチテストを行った結果、34人(0.7%)で陽性反応がみられたとする報告など、感作性ありとする報告が多数がある(環境省リスク評価第7巻:暫定的有害性評価シート(2009))。しかし、SIDS(2004)では、健康なヒトでは感作は起こり難いと結論していることから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。すなわち、本物質に関するin vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、JECFA FAS 48(2002))。ただし、SIDS(2004)では、本物質及びその関連物質である安息香酸ナトリウム、安息香酸カリウム、ベンジルアルコールを含め、突然変異性及び染色体異常誘発性はないと記載している。
発がん性		本物質は、EPAでグループD(IRIS(1991))のため、分類できないとした。
生殖毒性		ラットを用いた経口経路(混餌)での4世代生殖毒性試験において生殖・発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻:暫定的有害性評価シート(2009)、HSDB(Access on September 2013))。また、発生毒性に関しては、ラットを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加がみられた(HSDB(Access on September 2013))との報告と発生毒性はみられていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第7巻:暫定的有害性評価シート(2009)との報告、ハムスターを用いた経口経路(強制)での発生毒性試験において胚吸収の増加と奇形の増加がみられている(HSDB(Access on September 2013)との報告がある。発生毒性がみられたとの報告がリスト2の情報源からのみであることから、区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データ不足のため分類できない。なお、ラットの経口投与においてガイダンス区分2の用量(1,984 mg/kg)で体重増加に影響は見られなかったとの記載がある(SIDS(2004))。CICAD 26(2000)にはラットの経口経路(投与量不明)において下痢、筋力低下、振戦、自発運動の亢進、衰弱がみられたとの記載がある。またラットの吸入ばく露(粉じん)においてはガイダンスの範囲外の濃度(12.2 mg/L)において一時的な自発運動の亢進や流涎がみられたが、後に回復した(SIDS(2004))との記載がある。ウサギの経皮ばく露においてはLD50 > 2,000 mg/kgとあるが明確な毒性症状について記載がない。以上の結果から、区分の判断に足る所見がないことからデータ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		ラットの経口ばく露及びウサギの経皮ばく露では区分2のガイダンス値を上回る用量においても毒性所見は見られていない(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000))。一方、ラットに本物質エアロゾルを4週間吸入ばく露した試験では、区分2のガイダンス値の範囲内(ガイダンス値換算濃度:0.078 mg/L)の濃度で上気道の炎症、腎臓重量の減少が見られている(SIDS(2004)、CICAD 26(2000)、IUCLID(2000)、HSDB(Access on October 2013))が、腎臓は病理組織変化を伴っておらず、標的臓器とするには不十分であると判断した。以上の結果から、区分2(上気道)とした。
誤えん有害性		該当情報なし。

12. 環境影響情報

生態毒性	短期:(急性)	魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 44.6 mg/L(SIDS, 2004)から区分3とした。
	長期:(慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり(2週間でのBOD分解度=85%(既存点検, 1979))、急性毒性は区分3であるが、生物濃縮性が低いと推測される(LogP=1.88(SIDS, 2004))ことから、区分外とした。
残留性・分解性		容易に生分解される。
生体蓄積性		生体蓄積性はないと考えられる。
土壌中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号	—
品名（国連輸送名）	—
国連分類	—
容器等級	—
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
応急措置指針番号	—

15. 適用法令

化学物質管理促進法（PRTR法）	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔安息香酸〕(2025年(令和7年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物〔安息香酸〕 (2025年（令和7年4月1日)以降) 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
消防法	危険物に該当しない。

16. その他の情報

参考文献	国際化学物質安全カード（ICSC） The-Sigma-Aldrich Library REGULATRY snd Safety Data Vor.3 NITE－CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 17423の化学商品（化学日報社）

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報　データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。